

MacやiPadを組織に導入する

導入の流れと主なサービス

セキュリティの高さや利用者からの要望により、MacやiPadを導入する企業や教育機関が増えています。この冊子では導入のヒントやサービスメニューをご紹介します。



目次

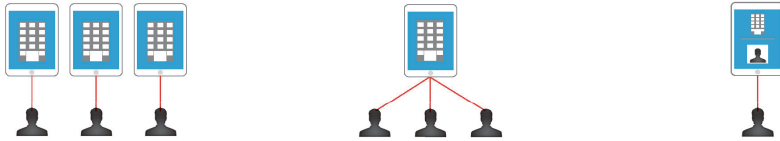
MacやiPadを組織に導入する	2
準備・導入設計	4
デバイスを購入する	6
Appleが提供する組織導入プログラム	8
デバイスを組織に登録する	9
アプリを組織で購入する	9
デバイス管理ツール	10
その他の管理方法	11
Tooがお勧めする管理ツール	12
Appleが提供する組織向けサポートサービス	14
Tooが提供するサポートサービス	15
Tooの導入支援体制	16

※この冊子に記載の内容は、予告なく変更する場合があります。最新情報はお問い合わせください。

デバイスを購入する

3つの導入モデル

デバイスの導入にあたっては、アプリの購入や、運用方法などを踏まえた導入モデルの決定が必要です。ここでは3つの導入モデルについて説明します。



組織のデバイスを個人に配布する

組織のデバイスを個人に配布する場合は、デバイスに基本的な設定を構成してからユーザーに配布したり、ユーザーが自分で適用するための構成プロファイルを配布したりできます。また、組織で使用する設定やアプリをリモートで提供することもできます。

組織のデバイスを共有する

デバイスが数人のユーザーによって共有されたり、1つの目的のために使用されたりする場合、通常は各ユーザーではなく、管理者が管理します。このような場合は、ユーザーによる個人データを保存や、アプリのインストールを制限できます。デバイスのコンテンツをユーザーが変更しても、リフレッシュや復元ができます。

個人のデバイスを持ち込む (BYOD)

個人のデバイスを組織に持ち込む場合は、ユーザー個人のデバイスを、ユーザーの Apple ID を使って設定します。組織の構成プロファイルを使ってインストールすることで組織のリソースにアクセスできます。ユーザーのデバイス上の個人データやアプリに影響を与えることなく、組織の設定の適用、監視、組織のデータやアプリの削除を行うことができます。

アプリを購入する

Appleのデバイスでは、OSをはじめ魅力的なアプリをあらかじめ数多く利用できます。ウェブブラウザ、メール、Keynote、Pages、Numbersをはじめとする業務で利用できるアプリから、iPhoneで使い慣れているカメラやFaceTimeなども利用できます。

iOSアプリ

iOSアプリは、App Storeからのみ購入が可能です。App Storeには200万種類以上のiOSアプリがあります。まずは目的にあったアプリを探してみましょう。iOSアプリは、ユーザーが各自のApple IDで購入する方法と、Volume Purchaseで購入する方法があります。ユーザー各自のApple IDで購入したアプリは、購入者のApple IDにのみつけられます。Volume Purchaseで購入する場合は、MDMを利用して組織にのみつけつけることができます。

Macアプリ

Macアプリは、様々な方法で入手が可能です。業務用アプリは年間使用ライセンス契約（サブスクリプション契約）になっているものも多く、計画的な導入が必要です。組織としてのパッケージ購入や販売店からの購入、メーカーサイトからのダウンロード購入、Mac App Storeからの購入などもあります。アプリによってはApple Business Manager (ABM) やApple School Manager (ASM) から、Volume Creditで購入することも可能です。

アプリの開発

どうしても目的にあったアプリがない場合や、特定の目的用のアプリが必要な場合は、組織独自のアプリを開発することもできます。社内用アプリの開発には、Apple Developer Enterprise Programを契約する必要があります。この契約で開発したアプリは、App Storeでの配布はできませんが、社内のデバイスに直接配布することができます。年度契約になるため、毎年の契約更新が必要です。

デバイス購入時に検討すること

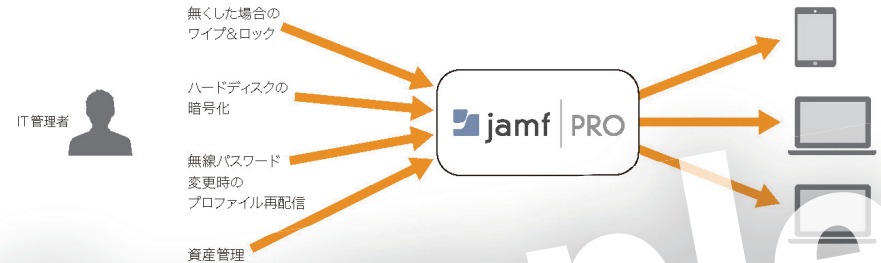
組織でデバイスを購入する場合、価格や支払い方法など検討しますが、それ以外にも考慮したい点があります。株式会社 Too は、Apple Value Added Reseller (VAR) として、デバイス本体に加え、デバイス導入時に必要になる各種プログラムの導入サポートや環境整備などを同時にご提案・ご提供が可能です。

導入構成例 ①

例：企業で使う

顧客の企業情報を扱う社員がMacBookなどのモバイルPCを持ち歩く場合、紛失時のリスクに対策を施す必要があります。管理ツール導入によって、ワイプ&ロック、各部署で利用する業

務用アプリの配布、情報流出を防ぐための使用禁止アプリの設定、定期的に変更する無線パスワードの配布など、これまでIT部門の負担が大きかった管理もリモートで実行することができるようになります。

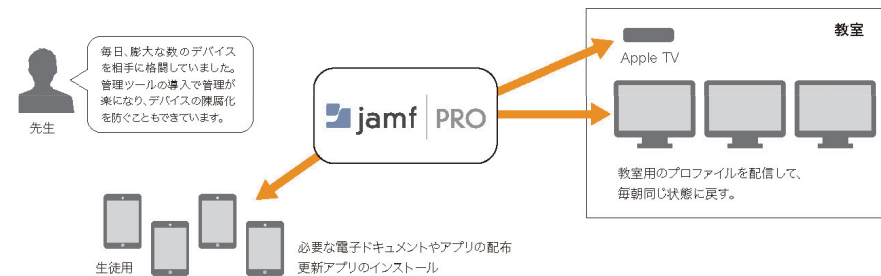


導入構成例 ②

例：教育機関で使う

教室で使うMacは、常に同じ状態に戻しておく必要があります。各教室で必要となる構成プロファイルを配信することで、同じ環境、同じアプリケーションの配備に簡単に戻すことができます。生徒が使うiPadや、教室に配備されるApple TVも一括で管理することが可能です。

また、新入生に一言に新しいデバイスを配布する場合は、Device Enrollmentに登録したデバイスを調達することによって、管理画面から各デバイスとMDMをひもづけすることができます。事前に箱を開けて設定を行う必要なく、そのまま生徒に渡すことができます。



導入事例ウェブサイトに多数掲載しています → www.too.com/fun/case/

